

第8回 大和北道路地下水モニタリング検討委員会
議事概要

1 日 時 令和元年11月5日(火) 10:00~11:30

2 場 所 近畿地方整備局 第1別館3階 304 共用会議室

3 出席者

委員長	京都大学名誉教授	大西 有三
	公益財団法人 辰馬考古資料館 館長	上原 真人
	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 特任教授	西垣 誠
	独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 所長	松村 恵司
	(代理 奈良文化財研究所 副所長	渡辺 晃宏)
	株式会社三木地盤環境工学研究所 所長	三木 博史
(欠席委員)		
	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 副所長	谷口 真人
	兵庫県立考古博物館 館長	和田 晴吾
(五十音順)		

4 議 事

1) 大和北道路地下水モニタリング検討委員会規約の改正について了承を得ました。

2) 地下水モニタリング検討委員会のこれまでの経過と今後の進め方(資料-1)及び地下水位観測について(資料-2)に対する説明がありました。

・引き続き8回委員会以降を開催し、地下水モニタリングに関する検討を進める。

3) 現地涵養試験による効果検証について(資料-3)に対する説明がありました。

(1) 現地涵養試験の試験結果

・涵養池直近の地下水位は、継続的な上昇傾向を示し試験期間中の1ヶ月で約40cmの水位上昇を観測した。

(2) 現地涵養試験結果の考察と評価

・周辺の地下水位と涵養池直近の地下水位の変動傾向の違いから、涵養池直近では涵養効果による水位上昇があったと判断される。

・ただし、観測された約40cmの水位上昇には、降雨による影響分が含まれると推察されるが、地下水解析モデルによる解析の結果、約4割程度が涵養池による効果と評価される。

→ 上記については、委員会において大枠で承認されました。

→ 次のような意見がありました。

・涵養後も土壌水分量が保持されている点なども評価をすればよいのではないか。

・データの整理項目には気温も追加すること。

4) 南側開削工事の地下水影響について(資料-4)に対する説明がありました。

- ・地下水解析モデルにより、南側開削工事及びシールドトンネル工事の地下水影響の予測を実施した。
- ・南側開削工事で万が一最大リスク相当のトラブルが発生した場合の第一帯水層の地下水位低下影響範囲は、開削区間近傍に限定的で平城宮跡まで及ばない予測結果であった。
- ・また、シールドトンネル工事で万が一最大リスク相当のトラブルが発生した場合の第一帯水層の地下水位低下影響は、ほぼ生じない予測結果であった。

→ 上記については、委員会において大枠で承認され、今後、異常時の地下水保全の検討として、地下水解析モデルを用いて平城宮跡内における涵養対策方法の検討を進めることになりました。

5) モニタリング体制については、今後も引き続き検討を進めることになりました。

6) 次回は、工事開始までに実施する予定の“平城宮跡内の地下水涵養施設”を中心に議論することになりました。

以 上